

ぴゅあめいる

2015年5月1日 発行

初夏の風物詩 紫陽花を 訪ねよう



花名のあじさいの語源は「藍色が集まったもの」を意味する「集真藍(あづさあい)」がなまったという説が有力とされています。もともとは、日本固有の植物でしたが、江戸時代ヨーロッパへ紹介され、品種改良を経て日本へ逆輸入されるようになりました。よく見かける手鞠状に咲いているものが「西洋アジサイ」で、本原産の「ガクアジサイ」は周囲にだけ花(実際にはガク)が咲きます。6月の6のつく日にあじさいを逆さまに吊るしておくと、厄除けやお金が貯まるとも言われています。

「藍色が集まったもの」を意味する「集真藍(あづさあい)」がなまったという説が有力とされています。もともとは、日本固有の植物でしたが、江戸時代ヨーロッパへ紹介され、品種改良を経て日本へ逆輸入されるようになりました。よく見かける手鞠状に咲いているものが「西洋アジサイ」で、本原産の「ガクアジサイ」は周囲にだけ花(実際にはガク)が咲きます。6月の6のつく日にあじさいを逆さまに吊るしておくと、厄除けやお金が貯まるとも言われています。



- あじさい祭り**
高幡不動尊金剛寺
6月1日から7月7日
京王線 高幡不動駅 徒歩5分
- 文京あじさいまつり**
6月6日から6月14日
都営三田線 白山駅 徒歩3分
- 開成あじさい祭り**
6月6日から6月14日
小田急線 新松田駅 徒歩25分
開成駅よりシャトルバス有
- 鎌倉のおすすりスポット**
長谷寺・明月院
成就院・浄智寺
極楽寺・東慶寺

「お〜い!お茶」と、よくCMで聞くことがありますが、私達の生活の中で、お茶を飲む習慣は遥か昔から継続されている文化です。もちろん日本だけではなく、外国においても同じ事ですが、コミュニケーションを図り、理解を深めていく一つの手段でもあります。

「死」と「生」は、切り離して考える事はできません。そう考えますと、一見なんの関わりもない道ですが、生と死、互いに表裏一体なのだという結論に達します。先人達が築いてきた文化が、今もなお続いていることは素晴らしい事で、小さな事でも意味があり深いものだと感じざるを得ません。本日のお茶はそんな思いを馳せながら美味しく頂きたいと思えます。



あじさいの色と花言葉
土壌が酸性だと青系にアルカリ性だと赤系になり、成長の段階でも色が変わる為、あじさいの花言葉と言え「移り気」や「浮気」などと言われています。ですが、日本古来のガクアジサイは青が主流で、「辛抱強い愛情」欧州のピンクのアジサイは「元氣な女性」です。土壌の影響を受けない白いアジサイは「寛容」。他にも小さな花が集まって大輪の花に見えることから「家族団らん」という花言葉もあり、今では花嫁さんのブーケや結婚式などにも使われるようになっていきます。

「お〜い!お茶」と、よくCMで聞くことがありますが、私達の生活の中で、お茶を飲む習慣は遥か昔から継続されている文化です。もちろん日本だけではなく、外国においても同じ事ですが、コミュニケーションを図り、理解を深めていく一つの手段でもあります。

「死」と「生」は、切り離して考える事はできません。そう考えますと、一見なんの関わりもない道ですが、生と死、互いに表裏一体なのだという結論に達します。先人達が築いてきた文化が、今もなお続いていることは素晴らしい事で、小さな事でも意味があり深いものだと感じざるを得ません。本日のお茶はそんな思いを馳せながら美味しく頂きたいと思えます。



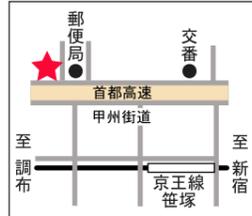
あじさいの色と花言葉
土壌が酸性だと青系にアルカリ性だと赤系になり、成長の段階でも色が変わる為、あじさいの花言葉と言え「移り気」や「浮気」などと言われています。ですが、日本古来のガクアジサイは青が主流で、「辛抱強い愛情」欧州のピンクのアジサイは「元氣な女性」です。土壌の影響を受けない白いアジサイは「寛容」。他にも小さな花が集まって大輪の花に見えることから「家族団らん」という花言葉もあり、今では花嫁さんのブーケや結婚式などにも使われるようになっていきます。

「お〜い!お茶」と、よくCMで聞くことがありますが、私達の生活の中で、お茶を飲む習慣は遥か昔から継続されている文化です。もちろん日本だけではなく、外国においても同じ事ですが、コミュニケーションを図り、理解を深めていく一つの手段でもあります。

「死」と「生」は、切り離して考える事はできません。そう考えますと、一見なんの関わりもない道ですが、生と死、互いに表裏一体なのだという結論に達します。先人達が築いてきた文化が、今もなお続いていることは素晴らしい事で、小さな事でも意味があり深いものだと感じざるを得ません。本日のお茶はそんな思いを馳せながら美味しく頂きたいと思えます。



■(株)花半
【生花店】
渋谷区笹塚2-22-1
TEL 03-3377-0271
営業/10:00~20:00
休日/水曜日



◎特典
3,000円以上
お買い上げの方
10%キャッシュ
バック

■(株)ユ一花園
【生花店】
桜新町店
世田谷区桜新町2-12-22
TEL 03-3706-8701
営業/10:00~18:00
休日/夏季・冬季約1ヶ月



◎特典 桜新町店: 3,000円以上お買い上げで3%割引
5,000円以上お買い上げで5%割引
下北沢店: 5,000円以上お買い上げで5%割引



下北沢店
世田谷区代沢5-29-12
TEL 03-3413-8700
営業/10:00~20:00
休日/不定期



「家族葬」考

表現文化社 編集長
碑文谷 創

「家族葬」という用語の誕生からかれこれ20年になる。その前には「密葬」と呼ばれていた。密葬の「密」は秘密の密である。「密(ひそ)かに葬る」とつまり関係者以外には閉じられた葬儀という意味である。「本葬があつて密葬がある」と言う方がいる。本葬される場合には死亡直後の葬儀は関係者以外に閉ざして行う密葬が通例だった。それが高度経済成長期に死亡直後の葬儀をあえて閉ざさない個人葬が多くなり、これをも密葬と呼んだのが誤解の始まりである。バブル景気崩壊は91年のこと。バブル期の社会儀礼に偏した葬儀に反発した人

「家族葬」考、いかがでしたか? 本当の意味の葬儀をふと考えてみますと、私たちは人として命を授かり、家族を作り、友人を作り、多くの方々との関わりの中で人生を育んでいきます。そして、いつか迎える別れ...。死者を弔うとは、遺体処理をすることではありません。

その方の人生を振り返り、そこに自分が関わった事を、改めて思う時間であると考えます。送る人、送られる人、両者に共有する時間、掛け替えのない時であると同時に、命の継承をする次世代の子供たちにも伝えていくことこそが、現代の大人たちの役割ではないかと思えます。

今回は「家族葬」について、葬儀業界の機関紙『葬祭界』第五五四号に掲載された葬儀業界を代表する碑文谷創氏の記事を皆様にご紹介いたします。

ひもんや 創 氏
一九四六年岩手県一関市生まれ。表現文化社代表、雑誌「SOGI」編集長。著書「お葬式はなぜするの?」「死に方を忘れた日本人」他

●編集後記
色とりどりの花々が咲き、色彩豊かで目も心もリフレッシュされますね。自然のパワーは偉大であると感じられます。日本に生まれてずっと暮らしていると、日本の四季がもたらす豊かな自然や、食べ物の恵みなどを当たり前のように感じてしまいがちですが、世界大多数の国では大変珍しいことなのだそうです。いつも当たり前と見ていた風景も、また違った目線で眺めると大自然からパワーをもらえるのではないのでしょうか。

ぴゅあめいる事務局からのお願い

日頃より「ぴゅあめいる」をご愛読頂きまして、ありがとうございます。お引越等でご住所が変更になりました方は、下記までお知らせ下さい。また、その他のお問合せやご連絡も「ぴゅあめいる事務局」までお願いいたします。
発行人: 杉田フューネス「ぴゅあめいる」事務局
所在地: 東京都世田谷区上北沢4-33-3
TEL. 03-3302-6767
<http://www.funes.co.jp>



